



# 日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレター

No.2 1999年12月20日発行

## ■ようこそ 第26回日本整形外科スポーツ医学会学術集会へ■

第26回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 会長 白井康正



会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私は2000年の第26回日本整形外科スポーツ医学会を主催させていただくことになり、たいへん光栄に存じております。学会の成功に向けて日本医科大学整形外科学教室の総力をあげて鋭意準備を進めております。本医学会はスポーツ医学の進歩と国民の健康や身体機能の向上のために開催され、毎年特色のあるテーマが提起されています。今回のテーマは、まずスポーツ医学にとって最も重要でかつ難しい問題であるスポーツ外傷と障害の治療と予防を取り上げました。特にスポーツの予防については、日頃スポーツの現場で活躍されている方々、あるいはスポーツを純粋な科学として研究されている方々に討議していただき、21世紀に向けたスポーツ外傷と障害の予防対策が打ち出されることを願っております。さらに、新しい企画として高齢者のスポーツ、身障者のスポーツ、学校スポーツをメインテーマに掲げました。これらの問題については過去散発的に報告されてきましたが、シンポジウムやパネルとしてまとまった議論はなされておられません。今回の成果が、今後本医学会がめざす新しい進路を切り

開くことになるようお願いしております。

学会の開催場所は、新幹線の東京駅に近い東京国際フォーラムとしましたので、地方からお見えの会員の方にもわかりやすく、有楽町の駅から雨が降っても濡れずに行ける大変便利な場所と思います。また、大会初日にはジョイントミーティングとして昨年産声を上げたスポーツ装具を語る会が予定されていますので、こちらの会にもご参加願いたく存じます。さらに、学会2日目土曜の午後より特別講師をお招きして、スポーツ医学の啓蒙のための市民公開講座を同じく東京国際フォーラムで開催予定としております。講師はラグビー界、相撲界、野球界の往年の名選手で、現在もその方面でご活躍の方にお願ひしております。一流選手として行ってきたメンタルトレーニングを含めたスポーツトレーニングの方法、現在のスポーツ界を取り巻く環境と問題点、21世紀に向けたスポーツの展望などについて、会員の皆様あるいは市民の方々にわかりやすい講演をしていただけるものと思っております。

学会が開催される2000年の5月まであと6ヵ月となり、シンポジウム、パネル、教育研修講演、ランチセミナーなど学会の骨格については着々と準備が進んでおります。1999年12月には演題の締め切りがまいります。会員の皆様方には、是非とも興味をお持ちのスポーツ分野について、その研究成果を本学会にご発表願いたく存じます。本学会が実り多きものとなりますように、何卒皆様のご支援とご協力のほどを賜りたく存じあげます。

## 第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を終えて

第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 会長 圓尾 宗司

第25回日本整形外科スポーツ医学会は1999年5月28日(土)・29日(日)の2日間、新緑の神戸ポート・アイランドの国際会議場で開催された。好天気にも恵まれ約750名の参加者を得て、4会場に分かれて活発な討議が繰り広げられた。2つのシンポジウム、4つの教育研修講演、11種目にわたる競技別パネル討論に一般講演を加え約163題の演題が発表された。

まず、今回の学会の特色としては、競技別のパネル討論であった。各種目の日本代表レベルを治療している第一人者に座長をお願いし、その競技に特殊な傷害を実際に治療しているパネリストを選んでいただいた。競技別の特殊性や各協会のスポーツ医学委員会活動が浮き彫りにされ、また大相撲などあまり一般に馴染みのない競技も身近なものとしてとらえることができ、各会場満員の盛況であった。

また、シンポジウムの1つに、スポーツ選手の椎間板ヘルニアの手術的治療が取り上げられた。この中で、スポーツ選手のヘルニアに対する経皮的髓核摘出術、レーザー髓核蒸散法などの手技、適応とともにその手術成績について真剣な討議がなされた。特に最近の外科手術は最小侵襲手術(MIS)の時代となり、このシンポでも従来法との比較がなされ、その結果厳格な手術適応とその限界を熟知したうえで正確な手術手技で行うことが重要で、決して侵襲が少ないからとの理由のみで安易に行うべきでないことが再確認された。

次に初めての試みであった“医学生のためのスポーツ医学セミナー”は杉岡九大総長と武藤東大教授の名司会のもとで第2日目の午後に平行して開かれた。全国から約60名の医学生たちが集まり、7名の講師の先生方よりそれぞれの体験に基づいた興味ある講演に耳を傾けた。学生たちの興味はどうすればワールドカップのような華やかなスポーツ・ドクタ



ーになれるかということのようであったが、いずれの先生も一生懸命に選手たちをサポートするうちに次第にはまり込んだもので、矢張り地道な努力こそが大切であることを強調された。1人でも多くの医学生たちがこの道で育って欲しいということで、盛り上がった討論が続けられた。本セミナーの継続開催を強く望むものである。

さらに、学会終了後に、同第2会場で“第1回スポーツ装具を考える会”が開催された。従来、スポーツ装具には明確な基準がなく多くの装具が考案されてきたが、その機能にはばらつきが多くいずれも高価であった。今後は医師、装具師、PT、メーカーなどが話し合いの場をもち、これらの問題を解決しなければならないということで、初回ではあったが約250人の関係者が集まり熱心な討議が繰り広げられた。

以上、手作りの学会ではあったが、参会者の皆様の絶大なるご支援とともに教室員の努力、多くのボランティアの方々のご支援により質素ながら実りの多い学会を開催できたことに感謝したい。今回試みたいくつかの新企画が今後も継続され、日本のスポーツ医学の正しい方向への益々の発展に少しでも寄与できれば望外の幸せである。

## 医学生ラグビー外傷について

日本整形外科スポーツ医学会 理事長 井形高明  
担当理事 守屋秀繁

標記の件、日本整形外科スポーツ医学会では、学術検討委員会を窓口とし、医学生の重篤なスポーツ外傷を予防する目的で、1996年に「全国医学部スポーツドクター協議会」を設置し、医学生ラグビー外傷について調査検討を進めてまいりました。会員各位のご協力によりまして、このほど調査の結果をまとめ、全国医学部長病院長会議ならびに国立大学医学部長会議に報告いたしました。会員諸兄姉におかれましても、この結果を踏まえ、最も直接的に現場に關与するスポーツドクターとして、指導者・学生の啓蒙を含めて、事故防止のためにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

### 記

#### 【調査方法】

過去5年間(1993～1997年)のラグビー外傷につき、全国医学部、医科大学ラグビー部(東医体33校、西医体40校、計73校)にアンケート調査し、66%の回収率を得た。

#### 【結果・考察】

193名に医師の治療を必要とする外傷を生じ、入院加療または手術治療を要した重症外傷が61例にみられた。今回の調査で最重視した医学部学生ラグビーによる頸髄損傷(四肢麻痺)例が1984年以降6例にみられた。

頸髄損傷受傷の主な原因としては、

(1)練習不足 (2)体調不良 (3)体力の不足 (4)技術の未熟さ

などであり、他のラグビー外傷の主因にもなっており医学生に特有な原因と思われる点が推察された。

以上、高度の重症外傷を含めて医学部ラグビー外傷が各地で多く生じていることが判明した。ラグビーは決して危険なスポーツではないが、受傷原因にみられるように、十分な体力と技術を習得し、体調のよい状態で競技、練習を行わないと重大な事故につながるものと考えられた。

## 第5回日韓整形外科スポーツ合同会議について

ご承知の通り、今回の合同会議は韓国側の開催となっております。前回、会期および会場をご案内させていただきましたが、この度、会長のDr. Ihnより詳細の連絡がございました。

今回の学会は、2002年、日韓ワールドカップイヤーに開催されます、第6回日韓合同会議(日本側開催)に向けて、友好関係を深める絶好の機会かと存じます。多数の会員にご参加いただきますようご案内申し上げます。

日本側世話人 山本博司

Dr. Ihnからのメッセージ

Dear Colleagues,

It is our great pleasure to announce that the 5th Korea-

Japan Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine will be held on June 22-24, 2000 in Kyongju, KOREA.

Main themes of this meeting are Knee, Shoulder and all of orthopaedic sports medicine field.

Kyongju located near Daegu, was ancient capital of the Shilla Dynasty for almost millennium beginning in the first century BC. Here, visitors can see numerous temple sites, royal tombs, Buddhist stone images and many other historical ruins and relics depicting the "golden era" of Korean culture.

Even though over 30,000 art objects are preserved in the Kyongju National Museum, the entire Kyongju valley has often called an "open air museum" and "Korea's cultural

city". The vibrant achievements of Shilla culture, carried to unprecedented heights, can still be felt in Kyougiu today.

I cordially invite you attend the meeting.

Through this meeting, I hope to develop more tight friendship and understanding the culture of each country. I am looking forward to seeing you in Kyongju.

会 長：Joo Chul Ihn, MD, PhD (Dept. of Orthop. Surg., Kyungpook National University Hospital)

会 期：2000年6月22日(木)～24日(土)

会 場：Hotel Hyundai, Kyongju (慶州), KOREA  
477-2, Shin Pyung Dong, Kyongju, KOREA

TEL: +82-561-748-2233 FAX: +82-561-748-8234

公用語：英 語

演題応募締切：2000年4月30日(日)

演題応募先および事務局

Chung-Wug OH, MD

Dept. of Orthop. Surg., Kyungpook National University Hospital

50, 2-Ga, Samdok Dong, Shung Gu, Daegu, Korea, 700-721

TEL: +82-53-420-5628, 5630

FAX: +82-53-422-6605

E-mail: ewoh@knu.ac.kr

参加費：

	4月30日以前	5月1日以降
医 師	¥20,000	¥25,000
同伴者	¥10,000	¥12,000

●上記には学会参加費，昼食，Welcome Reception, Official Banquetの料金が含まれます。

また，この他にオプションとしてゴルフ，ツアー等の予定もございます。

資料が必要な方は日本整形外科スポーツ医学会事務局へご請求ください。

## 関連学会・研究会のお知らせ

第27回日本整形外科スポーツ医学会学術集会

会 期：2001年9月13日(木)・14日(金)

会 場：メルパルク広島 (広島市)

会 長：広島大学医学部整形外科学教室 生田義和 教授

第11回日本臨床スポーツ医学会学術集会

会 期：2000年10月28日(土)・29日(日)

会 場：シーガイア (宮崎市)

会 長：宮崎医科大学整形外科学教室 田島直也 教授

## 編集後記

去る5月の第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会(会長 圓尾教授)は，多数の参加者のもとに盛大に行われました。さまざまな企画は今後の本学術集会のあり様を示すものと思います。

2000年は5月に第26回学術集会(会長 白井教授)と6月に韓国で第5回日韓合同会議が開催されます。お知らせを読まれて，是非，ご参加ください。

また，本学会の「全国医学部スポーツドクター協議会」の調査報告は傷害予防の基礎資料として有益なものとなるでしょう。

いよいよ，本学会もホームページを開設しますのでご期待ください。近日中に学会内の手続きをすませ，作業に取りかかりたいと考えています。多彩な情報を掲載しますが先生方で良いアイデアがございましたらご一報ください。  
(宮永 豊)